

人文科学研究所研究叢書

26.『近代劇の変貌「モダン」から「ポストモダン」へ』

2001年3月31日発行

中央大学人文科学研究所 編 中央大学出版部発行

本体価格4,700円（税別）

ISBN 4-8057-5319-6

まえがき	
第一章 イギリス	
「凄絶の美」と「荒ぶる獣」の変貌 —イェイツとベケットの演劇宇宙	百瀬 泉
ブライアン・フリール —言語と歴史と	小林 清衛
レナード・ウルフなんか怖くない？ —エドナ・オブライエン『ヴァージニア』	小野 素子
トム・ストッパード —ポストモダン・コメディ	竹中 昌宏
現代演劇源流論 —境界領域を再検証する	グレアム・ブラッドショー
第二章 アメリカ	
テネシー・ウィリアムズ —ポスト・モダンへの挑戦	黒田 絵美子
ポストモダンの劇作家ランフォード・ウィルソン —マイノリティーの視点から	長田 光展
デイヴィッド・マメット劇における演出 —閉鎖的な世界にかいま見える真実	ジョン・M・ブロウカリング
デイヴィッド・ヘンリー・ウォン『響きと美』 —たましいの響き、たましいの美	大森 裕二
第三章 ロシア・ドイツ・中国	
スタニスラフスキー・システムについて —モダン、ポストモダンを超える「科学」＝「演劇的知」	中本 信幸
未完の神聖な喜劇 —ジョージ・タボーリ「ゴルトベルク変奏曲」	平山 令二
演劇が聞こえる風景 —ハイナー・ミュラーの『絵の記述』と『ヴォロコラムスク幹線路』を例に	石田 雄一
高行健の劇作について —中国演劇の「ポストモダン」	飯塚 容
索引	